

会長挨拶

本日は平成21年度日本エスコフィエ協会総会・晩餐会にご来賓の皆様、ご多忙のところ多数ご臨席を賜りありがとうございます。昨年、剣持前会長が健康上の理由により、退任されまして、後任として理事の皆様へ推され、不肖、私が後を継ぐことになりました。非常に職の重さを痛感しております。協会が創立以来、使命として参りましたフランス料理の継承・発展、料理人の人材育成、料理を通じた社会貢献、この3点を歴代の会長は継承してこられました。私も後を継いで協会の発展に尽くしたいと思っております。

さて周知の通り、昨年9月、アメリカ合衆国のサブプライムローンに発しました世界的不景気、未曾有の経済不況ということで、皆様方も大変ご苦労されておられると思います。さらに最近では新型インフルエンザの問題により、一部の地方では大変大きな打撃を被ったと聞いております。心からお見舞いを申し上げます。

先ほど総会で説明がありましたように、昨年12月、法人について法令の改正があり、協会も5年以内に一般社団法人、公益法人、財団法人の中から選択をしなければなりません。当初、公益法人を目指しておりましたが、協会では選任の委員が、講習会に出席し、専門家からの意見を伺い、事務局の規模、財務面、その他の面で公益法人化のリスクは非常に高く、一般社団法人に向かうことが協会として望ましいとの報告を受けました。先般の理事会における審議の結果を本日皆様にご賛同いただきましたので、2～3年以内に申請できますよう、準備を進めてまいります。

また本年2月にエスコフィエ協会世界連盟総会がスイス、ジュネーブに於いて開催され、日本からは今井副会長が出席しました。名称を「オールドル」から「ディシプル・エスコフィエ・アンテルナショナル」に改め、フランス料理の発展という協会の使命と活動については何も変わらないという報告であります。詳細につきましてはエスコフィエ通信43号に記事の掲載がございます。同時に開催されましたエスコフィエ料理コンクール世界大会には、日本からは、昨年の第4回エスコフィエ・フランス料理コンクールで優勝しました吉本憲司君が参加いたしました。残念ながら入賞は逃しましたが、その作品を通じ、エスコフィエの料理を継承した日本のフランス料理の技術は、審査員から高い評価を受けたと聞いております。今後も料理人の人材育成のため日本で隔年に行っております料理コンクールは継続していきたいと考えております。

次にフランス料理用語辞典を中国版で出版いたしました。北京、上海などのホテル、レストランに於いてフランス料理に従事する料理人の方々に大変喜ばれたと報告があり、中国芸術文化促進協会、北京料理人協会から協会に宛て、感謝状が送られてきましたこともご報告いたします。

まだまだ景気は大変な状況が続くかと思いますが、皆様の今まで通りのご指導ご協力を賜りまして、会員の皆様とともに協会も乗り切っていかなければと思っております。本日はこの晩餐会につきまして、ホテルオークラの皆様へ豪華な場所をご提供いただき、お料理も楽しみにしております。皆様とともにゆっくりと晩餐会を過ごしたいと思っております。最後になりましたが、ご来賓の皆様、全国会員の皆様のご健勝とますますのご活躍をお祈りしまして、開会の挨拶といたします。どうもありがとうございました。

社団法人日本エスコフィエ協会
会長 浅野和夫